

EPA ハノイ便り

8月号

令和2年8月7日

ARCベトナム校発行

~ 看護・介護専門講義 *~*

コロナウイルスの感染拡大が世界中で大きな問題となつています。ベトナムでは政府・市民の協力のもと、市中感染はかなり抑えられています。生活様式はやはりこれまで通りとはいきません。EPAベトナム8陣も4月中はオンライン授業を余儀なくされたり、7月のJLPTが中止されて受験できなくなったりと影響を受けています。これまでとはやり方を変えなければならぬ部分も多々ありますが、候補者の「日本で看護師・介護士として働きたい」という気持ちと、講師の「候補者の日本語を上達させたい」という気持ちには変わりなく、日々の研修に取り組んでいます。今回は現在実施されている専門講義についてご紹介します。

★★★ 看護・介護の専門講義 ★★★

例年であれば日本から看護・介護の先生方に来ていただき、日本式看護・介護について理論と実技を学ぶのですが、今回は事前に先生方にご協力いただいて作成した動画とオンラインでの授業実施とな

りました。

初めての試みですので、実施前には不安もありましたが、始めてみると候補者たちは通常の授業時と変わらない様子で熱心にメモを取っていました。若さもあるのかオンラインでのやり取りにも抵抗がなく、質問の時間には積極的にカメラの前に立って思い思いの質問を先生方に投げかけていました。

オンラインで先生に質問しています



スクリーンで動画を視聴しました。



★★★ 看護・介護の声かけ ★★★

日本で看護師や介護士として働くためには、専門的な知識・技術の習得と同様に、患者や施設利用者と日本語で適切なコミュニケーションが取れる必要があります。その練習として、「看護・介護の声かけ」の授業が実施されています。

人体図を作成中



授業では、看護や介護の現場で使用される体の各部位の名称を把握するため、グループに別れて人体図を作成し、教室に掲示しました。

食事介助の声かけ



数日後、あるクラスでは「食事介助の声かけ」の授業が行われていました。最初は険しい顔でスクリーンとにらめっこをしながら練習していた候補者たちでしたが、授業の最後には実際の動きもまじえつつ、笑顔で声かけられるようになっていました。

先の見通しがたちにくい昨今ですが、候補者たちは「できることをしっかりと進めることが将来につながる」と信じて、前向きにがんばっています。